

家庭の愛情と子供のパーソナリティ

町田 恭三

一、問題の提出

人間のパーソナリティは児童期、特に一応四・五才頃迄に、その将来の発展への基盤を完成させてしまふと言われているのであるが、その基盤の完成に大きな役割を持つものとしては、先天的な遺伝形質と、彼等の家庭環境を通して与えられる、その民族或いは社会の文化とを、我々は考えることが出来る。そしてパーソナリティの形成の上に於ては、先天的なものも、後天的なものも、共に重要視せられなければならないのであるが、家庭環境は最も可塑的な幼児期に於ける彼等の生活の場の総てであること、その民族或いは社会の文化も家庭を通し、家庭で醸成せられて与えられること等を思う時、家庭環境そのものの重要性が、又教師は勿論、親及び世間一般の人々によつて、再確認せられなければならないと私は考える。

家庭環境そのものを問題にする場合、家庭は如何にあるべきか、というその表面上の現れが、当然最後には問題とされなければならないのではあるが、そのことの一步前の段階として、又

そのことを規定する最本源的なものであらざるものとして、家庭に於ける「愛情」の問題を、私は心理学的な立場より取上げようとするものである。

「愛情」を問題にするに当つては、それが教育的なものであるか、衝動的・生物的なものであるかが当然問題とせられなければならないのであるが、愛情の過多、又その反対の不足というものが、その性格や学業成績の上にどのような影響を与えるかという、言わば唯愛情の量の過不足の、その性格と学業成績とに及ぼす影響を、この際は問題にしてみようと思う。尙問題にする愛情の量は、親及びその他家庭の年長者によつて、その子に加えられ愛情の量の総計である。

二、対象と方法

福岡市内幼稚園二、小学校二の約三五〇名を一応の対象とし、小学校は第二学年・第四学年・第六学年の一年おきに選んだ。之は発達の過程が見られるならば、一学年おきの方が明瞭な形で現れるであろうこと、又反対に、このことには或は発達の過程等

(第一表) 対象の内訳

		幼稚園	小学校		
			第2学年	第4学年	第6学年
総数		95	77	92	92
内訳	男	56	38	48	49
	女	39	39	44	43

(第二表) 採点表

項目	得点	第一部			第二部		
1		3,	1.5		3,	2,	1
2		3,	1.5		1,	2,	3
3		3,	2,	1	1,	2,	3
4		1,	2,	3	1,	2,	3
5		3,	1.5		1,	2,	3
6		1,	2,	3	3,	2,	1
7		3,	1.5		1,	2,	3
8		3,	1.5		3,	2,	1
9		3,	2,	1	1,	2,	3
10		1,	2,	3	1,	2,	3
11		3,	2,	1	3,	2,	1
12		1,	2,	3	1,	2,	3
13		1,	2,	3	3,	2,	1
14		1,	2,	3	1,	2,	3
15		3,	2,	1	1,	2,	3
16		3,	2,	1	1,	2,	3
17		3,	1.5		3,	2,	1
18		3,	2,	1	1,	2,	3
19		3,	2,	1	3,	2,	1
20		3,	2,	1	3,	2,	1
21		1,	2,	3			
22		3,	2,	1			
23		1,	2,	3			

はしないのではなからうか、ということ予想したためであつて、私は之等の予想の為に、低学年・中学年・高学年より、夫々を代表する学年を各一学年宛選んだのである。尙幼稚園・小学校各学年とも対象とした園児及び児童は、無作為に選ばれた各二学級の全員であり、第一表はその内訳を示す。

之等の対象に後掲の如き質問紙を配布、小学校第四学年以下は第一部・第二部共に、家庭に持参させて父兄に答を書いてもらい、第六学年は第一部のみ父兄に、第二部は之を自己評定の形のものになおして、学校に於て自己評定させた。

第一部は家庭に於てその子の持つ、愛情に関係ありと考えられ

る客観的条件と、その子供に与えられる愛情の度合を測定しようとするものである。そのうち例えば、第一項目の出生順位の問題に於ては、長子、末子等は他の兄弟姉妹よりは、強い愛情が加えられるであろうことを、第三項目の、対象とされる子供の性がその出生前に両親の期待した性と一致しているか否かの問題に於ては、一致した場合は、一致しない場合よりも、与えられる愛情は多いであろうことを、第四項目の乳幼児時代に里子に出したことがあるか否かの問題に於ては、事情の如何を問わず、里子に出した場合、その出した期間にもよるのであるが、連れもどしてから後、その子の親との間には、里子に出さなかつた場合の実親子関

係とは、心理的に異つた実親子関係の生ずるであろうことを、最後の第二十三項目の学歴・身分・職業に関する問題に於ては、隣り近所の者と比較した場合、自分の方がその学歴に於て、或はその職業に於て、或はその身分に於て優越しているのだとの考えが両親に働く場合には、仮令それが形だけのものであつたにせよ、我が子に強い愛情を持つている場合と同じ影響が与えられるであろうことを、共に予想するものである。

第二部は家庭に於ける愛情の多寡によつて、影響が見られるのではないかと予想した、性格の具体的な現れを列挙したものである。

その採点法は第二表の通りであるが、第一部・第二部共に、三段階に分けたものには、加えられる愛情の多いと予想せられる順に、三点、二点、一点を与え、有・無等の二段階に分けたものには、愛情の多いと思われたものに三点、少いと思われたものには一・五点を与える。又答の記してない場合には一・五点、同一項目中で二つ重複して答の出る場合には、その合計点を与える。例えば第一項目に於て、その出生の順位が、長子であつて而も末子である場合には、両者共に第一段階に位するものとして、三点と三点、計六点を与えるが如きがそれである。そして第一部の総点の多寡が、家庭に於ける愛情の多寡を、一応現すものと私は考えた。

尙、受持教師の主観的觀察に基く、親の子に対する愛情の度合の評価結果との相関々係を調べて出した、第一部の妥当性は第三表の通りである。

この受持教師が家庭の愛情を評価するに當つては、例えばPTAの会への出席の状態、学校参観、子供の予習・復習・宿題等に対する関心、子供が勉強し易いように環境を調整することへの関心、その他子供の健康・栄養・服装・学習材料等への関心等が、一応参考資料を提供してくれらるものとして考慮せられた。

妥当性係数は表示せられた如く、高いとは言えないのであるが、受持教師の觀察による評価は極めて困難であり、その為この觀察結果との間に求められた標本妥当性係数が低くとも、余り悲観するには当たらないと私は考える。

第一部採点の結果は第四表の通りである。

一蓋然誤差を一段階として幼稚園・小学校共に段階づけを行い、中央の段階より上及び下に二段階以上の開きを持ち、一応異常と考えられる上・下の各群と、中央の普通群を以て、私は今回の調査の直接の対象とし、性格の面に於ては、その性格の具体相を第二部の項目別に比較し、学業成績の面に於ては、全教科目の

(第三表) 第一部の妥当性

	幼稚園	小 学 校		
		第2学年	第4学年	第6学年
妥 当 性 係 数	0.33	0.65	0.30	0.37
C. R.	2.05 (0.05)	3.67 (0.001)	1.89 (0.1)	2.50 (0.025)

(註) C. R. 欄の括弧間の数字は危険率を示し、それ以下の危険率で有意な相関のあることを示す。

(第四表) 第一部採点の結果

	幼稚園	小学校		
		第2学年	第4学年	第6学年
T	4739.5	3717.9	4433.5	4509.5
M	49.88	48.28	48.19	49.16
S. D.	3.46	4.14	3.92	3.31
P. E.	2.33	2.79	2.64	2.23

(第五表) 直接対象とした各群の人数

	幼稚園	小学校		
		第2学年	第4学年	第6学年
第1群	9	5	9	11
第2群	30	19	25	26
第3群	10	9	8	10

成績を基にして作られた、その学級内の席次を比較したのである。直接の対象とした人数は第五表に示す通りであるが、表中の第一群は、第一部の結果より、与えられる愛情の少いと考えられる者、第二群は大体過不足なく普通と考えられる者、第三群は与えられる愛情の多いと考えられる者の群である。

三、調査の結果

幼稚園・小学校各学年の性格面(第二部)に於ける調査の結果は、第六・七・八・九表に示す通りである。表中の「項目」は質問紙第二部の項目であり、各項目の得点は夫々の項目に於ける平均得点を示している。

母集団に於ける各群平均得点間の差の検定には、Fテストを使用した。表の差の検定欄の空欄になつている項目は、標本集団に於ては差が認められても、母集団に於ては、Fテストの結果差の認められぬ項目であり、この欄に数字の記入してある項目は、母集団に於ても、その項目に於ては三群の平均得点間に有意の差の認められる項目である。例えば、幼稚園に於ける第十、第十三項目の、 $p\{F_0 \leq 4.12\} \wedge 0.05$ 、 $p\{F_0 \leq 29.21\} \wedge 0.01$ は、夫々危険率5%以下、1%以下で、三群平均得点間の差は、母集団に於ても有意であることを示している。

第十表はFテストによる検定の結果、三群の平均得点間に、有意の差があるものと認められた項目のみを、学年別に集め、各群の順位を特に明示してみたものである。

第十一表は学業成績と第一部成績との相関係数を示したものであるが、表中の信頼限界は九九%に於けるものである。相関係数の検定には臨界比(C・R)を使用した。

(第六表) 第二部項目別平均得点 (幼稚園)

項目 \ 平均	第1群	第2群	第3群	差の検定
1	2.44	2.54	2.30	
2	2.00	1.90	2.20	
3	2.22	2.16	2.20	
4	2.28	2.54	2.30	
5	2.00	1.83	1.90	
6	2.67	2.26	2.40	
7	2.11	2.06	2.10	
8	2.44	2.16	2.40	
9	2.68	2.33	2.60	
10	1.56	1.90	2.30	$p\{ F_0 \geq 4.12\} < 0.05$
11	1.89	1.60	1.80	
12	1.45	1.63	1.30	
13	1.89	2.20	3.10	$p\{ F_0 \geq 29.21\} < 0.01$
14	2.68	2.76	3.00	
15	2.78	2.51	2.90	
16	1.56	1.93	1.80	
17	2.22	1.96	2.30	
18	1.89	2.12	2.30	
19	2.33	2.33	2.40	
20	2.22	2.51	2.20	

(第七表) 第二部項目別平均得点 (第2学年)

項目 \ 平均	第1群	第3群	第2群	差の検定
1	2.80	2.44	2.31	
2	2.00	1.78	2.08	
3	2.20	2.56	2.05	
4	2.60	2.56	2.58	
5	2.20	2.00	2.05	
6	2.60	2.33	2.36	
7	1.60	1.89	1.73	
8	2.40	2.44	2.20	
9	2.20	3.00	2.00	
10	1.60	2.17	2.05	$p\{ F_0 \geq 3.42\} < 0.05$
11	1.20	1.67	1.66	
12	1.60	1.56	1.84	
13	2.20	2.77	2.58	
14	2.10	2.68	2.60	
15	2.10	2.56	2.76	
16	2.80	1.78	2.16	$p\{ F_0 \geq 103.33\} < 0.01$
17	1.60	2.44	2.00	$p\{ F_0 \geq 84.00\} < 0.01$
18	2.20	2.88	2.05	
19	2.20	2.67	2.31	
20	1.30	2.12	2.11	

(第八表) 第二部項目別平均得点 (第4 学年)

項目 \ 平均	第1群	第2群	第3群	差の検定
1	2.00	1.92	2.25	
2	1.89	2.04	1.87	
3	1.89	2.45	2.00	
4	2.11	2.62	2.75	$p\{ F_0 \geq 7.07\} < 0.01$
5	2.00	2.23	2.00	
6	2.33	2.44	2.25	
7	1.45	1.84	1.62	
8	2.00	2.08	2.25	
9	2.44	2.50	3.00	
10	1.45	1.88	2.50	$p\{ F_0 \geq 6.23\} < 0.01$
11	1.78	1.84	1.87	
12	1.33	1.68	1.75	
13	2.33	2.48	2.61	
14	2.62	2.64	3.00	
15	2.56	2.62	2.50	
16	2.00	2.20	1.75	$p\{ F_0 \geq 15.5\} < 0.01$
17	1.89	1.88	1.75	
18	1.78	2.01	2.25	
19	2.22	2.22	2.25	
20	1.78	1.95	2.12	

(第九表) 第二部項目別平均得点 (第6学年)

項目	平均	第1群	第2群	第3群	差の検定
1		2.09	2.66	2.20	
2		1.73	1.76	2.10	
3		1.73	1.19	1.30	$p\{ F_0 \geq 4.19\} < 0.05$
4		2.18	2.26	2.40	
5		1.64	2.00	2.00	
6		2.46	2.57	2.80	
7		1.82	2.19	2.30	
8		2.09	2.57	2.20	
9		1.82	1.50	1.70	
10		1.36	1.89	2.20	
11		1.00	2.38	2.30	
12		2.27	2.65	2.60	
13		2.90	2.92	2.90	
14		1.73	1.96	1.80	
15		2.00	1.92	1.90	
16		1.82	2.30	2.00	$p\{ F_0 \geq 4.12\} < 0.05$
17		2.00	2.26	2.20	
18		2.00	2.32	2.40	
19		1.45	2.27	2.20	$p\{ F_0 \geq 13.90\} < 0.01$
20		2.18	2.30	2.40	

(第十表)

有意な差のある項目に於ける各群の順位

項目	幼稚園	小学校		
		第2学年	第4学年	第6学年
3				△ 2—3—1
4			○ 1—2—3	
9		● 3—1—2		
10	○ 1—2—3		○ 1—2—3	
13	○ 1—2—3			
15		○ 1—3—2		
16		● 3—2—1	● 3—2—1	○ 1—3—2
19				○ 1—2—3

- (註) (1) ○ 第1群の最も劣るもの ● 第3群の最も劣るもの
 △ 第2群の最も劣るもの
- (2) 1—2—3、3—2—1等に於て、各数字は夫々の群の名称であり、左より右に行くに従つて、平均得点の上昇していることを示す。例えば、1—2—3は平均得点、第1群が最も低く、第3群が最も高いことを示している。

(第十一表)

第一部と学業成績との相関

	幼稚園	小学校		
		第2学年	第4学年	第6学年
学業成績との相関	0.52	0.51	0.65	0.70
C. R.	3.56 (0.001)	2.88 (0.01)	4.10 (0.001)	4.74 (0.001)
信頼限界 (99%)	0.73 ~ 0.21	0.75 ~ 0.14	0.83 ~ 0.34	0.84 ~ 0.44

- (註) C. R. 欄中の括弧内の数字は危険率を示す。
 例えば幼稚園の(0.001)は危険率0.1%以下で、有意な相関のあることを示している。

四、結 論

1、私は当初、可愛がり過ぎ、甘やかし過ぎ、子供本位過ぎというような形で現れて来る子供への愛情の過多が、子供の性格発展には案外重大な、マイナス的影響を与えるのではないかということ予想したのであるが、私の調査の限りでは、やはり愛情の欠乏の方に多くの問題があるように思われる。愛情の過多が問題になるのは、小学校第二学年、第四学年の第十六項目、即食物の好き嫌い、及び第二学年の第九項目、即こと更に上の人の機嫌をとろうとする傾向であつて、之等二つの項目に於ては、愛情の多い程低い値を示している。このことは、前者は身体面へのみならず、克己心・忍耐心等の精神面へも連るものとして、又後者は邪悪な道を歩んでも自己の地位を有利に導こうとする邪な性格に發展する可能性あるものとして、共に注目を引かなければならない点であらう。

2、与えられる愛情の少い程問題になるのは、幼稚園及び小学校第四学年に於ける第十項目の喧嘩、第十三項目の同情心、第二学年第十五項目の取越し苦勞性、第四学年第四項目の自己優越慾、第六学年第九項目の淡白性等である。喧嘩は愛情少く、常に自我が否定抑圧せられている状態に在るものが、破局回避の手段として用いる最も常套的のものであり、弱者に対する非同情的態度、及び自己の優越をこと更に誇示しようとする傾向は、共に家庭に於て、自己の優越していることを示す機会の余り与えられないものが、無意識的に示す補償的な態度である考えられる。又淡

白さの欠除は、自発的な正しい行動に対して余り賞辞も与えず、常に年長者の意志に絶対に随従した、消極的な行動のみを強制せられる可能性あるものにとつて、年長者に対する無意識的な抵抗の為であり、又人によつては、多く自己の言動が否定せられる為に現実生活に於ける適応能力を失い、極度に内向化し、非現実的な生活場面に於てしか生活し得なくなつた為であると考えられる。

3、第六学年第三項目の利己心に於ては、愛情の中庸の者が最低点となり、愛情の少い者が最高点を示している。之は何事につけ、冷い年長者の存在の故に、自己中心的という慾望が否定せられた者の外的表現は、自己存続の為に他者中心的となり易いこと、及び愛情の中庸は一層の慾求をかり立たしめる、ということの為ではなからうか。

4、第二、第四学年の第十六項目、食物の好き嫌いに於て、最高得点を示した愛情の少い者が、第六学年に於ては逆に最低点を示している。若しも発達心理学的な意味をこの調査が持つとするならば、それは年長者に対する反抗の一つの現れと見做せるかもしれない。

4、各学年を延べて最高得点を取つた回数、第一群が三回、第二群三回、第三群五回であるが、結局このことより、子供に対して最も直接的な関係を持つ家庭の年長者の、子供に対する愛情は、時と場合によつて変化のあること、換言すれば常に最低の愛のみが与えられるのは勿論のこと、中庸のものゝみであつても、又仮令最大の愛のみが与えられたにしても、子供の円満なパーソ

ナリテイの発達の為には、必ずしも十分とは言い得ないというこ
とが言い得るのではなからうか。

5、第一部の得点と学業成績との相関は、標本相関係数に於
て、小学校第三学年の〇・五一より、第六学年の〇・七〇に至
る。このことは子供に対してどれだけの愛情を家庭の年長者が持
つているかが、相当子供の学業成績に影響を与えるものであるこ
とを示している。

(質問紙)

中学校 第 学年 男 氏 名
幼稚園 幼 稚 園

一、お子様のことに関し、次の事柄についてお教え下さい。尙こ
の調査は、お子様の学校の成績には全く影響致しませんから、
ありの儘をお教え下さるようお願い致します。

二、各問題には、二又は三個の答が書いてありますから、その中
の適当な答に〇印をつけて下さい。

第 一 部

- 1、出生の順位(生存中の者のみのうち)
 - 一・二・三……………末子
- 2、男の中の唯一人の女の子

女の中の唯一人の男の子

最初の男子又は女子(第三子以下のみ)

3、生まれる以前に、両親が期待された通りの性(男とか、女と
か)の持主ですか。

期待した通り 別に期待は
しなかつた 期待したのと
違う

4、小さい時に、長く他人にその養育を頼みましたか。

長く頼んだ 少し(一ヶ月
位)頼んだ 頼んだことは
ない

5、直ぐ上の兄又は姉との年齢の差……………年

直ぐ下の弟又は妹との年齢の差……………年

6、誕生後どの位で完全に離乳しましたか。

八ヶ月から 一年一ヶ月から一
一年迄の間 年六ヶ月までの間 一年七ヶ月以上

7、同居している祖父母……………有・無

8、女中又は下男……………有・無

9、子供の為の新聞・雑誌・参考書・絵本・玩具その他(そのう
ち一つでよい)。

屢々又は毎月 時々與える 余り與えない
與える

10、子供の躾

厳しい 普通 自由に伸し、なる
べく干渉しない

11、家庭内の生活の仕方

子供本位 多少子供を 父親の邪魔にならぬ
犠牲にする よう常に氣をつける

12、子供の教育・育児についての、家庭内に於ける意見の違い。

常にある 時々ある 殆んどない

13、家事

非常に忙しい 普通 余り忙しくない

14、家庭の経済状態

苦しい 普通 苦しくない

15、子供に対する親の要求

是非親以上の者、又は親のなり得なかつた職業の人とさせたいと思う 普通の人に なればよい 何もない

16、子供の教育・育児の為の書物・ラヂオ等の利用(親が利用する)

非常に熱心 時々利用 余り利用しない

17、子供専用の遊び部屋又は勉強部屋……有・無

18、子供の勉強机

子供の一人々々に有る 共同のがある ない

19、子供の誕生日

出来るだけ盛大に祝う 普通 別に何もしない

20、子供の遊びと友達について

非常に注意する 普通 子供の自由に任す

21、叱り方

時々体罰を加える 叱つても体罰は加えない 殆んど叱らない

22、子供の容貌について

非常に好き 好きとも、嫌いとも思わない 嫌いだと思う

23、家の近所(隣組程度)の様子

親の学歴・身分・職業・地位よりも、上の者が多い 皆大体同じ 下の者のみ

第二部

(お子様自身のこと)

1、現在の健康状態はよいですか。

よい 普通 余りよくない

2、何事をするのにも依頼心が強いですか。

強い 普通 何事も自力でしようとする

3、我が儘ですか。

我が儘で他人のことなど考えない 少しはその傾向がある 余り我が儘でない

4、実際以上に強そうなこと、又出来もしないのに出来そうなことを言いますか。

よく言う 時には言う 言わない

5、自分の思うようにならない時、直ぐ癇癪を起したり、怒つたりしますか。

する する時もある 殆んどしない

6、大勢の友達とよく遊びますか。

よく遊ぶ 普通 余り遊ばない

7、物事に飽き易いですか。

飽き易い

普通

なか／＼飽きない

8、顔は常にニコ／＼していますか。

常にニコニコ

普通

少し陰氣

9、年齢の上の人の機嫌をとろうとするようなことはありませんか。

あ

時にはある

ない

10、友達や兄弟姉妹とよく喧嘩をしますか。

よくする

時にはする

しない

11、復讐心が強いですか。

強

普通

弱い

12、誤つて自分のものが汚されたり、破られたりした時など、非常に腹を立てますか。

非常に腹を立てる

それ程でもないが、立てることは立てる

立てずに、相手を直ぐ許す

13、気の毒な人を見たり、気の毒な人の話を聞いた時など、非常にその人に同情しますか。

非常に同情する

普通

余り同情するような風も見えない

14、他人に比べて、常に自分を卑下しているような風は見えますか。

常に見える

少し見える

見えない

15、取越し苦勞をよくしますか。

よくする

時にはする

しない

16、食べ物に好き嫌いが多くですか。

多い

一・二嫌いなものがある

別がない

17、面白いことを言つて、人をよく笑わせますか。

よく笑わせる

時には笑わせる

殆んどない

18、親の言うことを一度で聞かず、よく口答えをしますか。

よくする

時にはする

しない

19、自分の思つていることを、何でもあつさり人に言いますか。

言う

言う時もある

なか／＼言わない

20、自分のすること、言うことに、何時も自信を持っていますか。

持つている

持つていない時もある

持つていない

第二部

(第六学年 自己評定用)

1、あなたは現在非常に健康ですか。

非常に健康

普通

余りよくない

2、あなたは、もし東京に親戚があつたら、一人で行くことができますか。

行くことが出来る

わからない

誰かと一諸でないと行くことが出来ない

3、もしもあなたは五〇〇円もらつたら、それを何に使いますか。

何かを買う爲
貯金しておく

二〇〇円だけ弟
妹に何かを買つ
てやり、あとは
貯金する

四〇〇円は皆の
爲に何かを買つ
てやり、あとは
貯金する

4、あなたは最初に何かをすることを引受けて、あとでそれを引受けなければよかつたと後悔するようなことが、よくありますか。

時々ある

ない

5、あなたは自分が折角何とかしようとしていたのに、邪魔されて出来なかつた時には、癪にさわつて直ぐ怒りますか。

直ぐ怒る

怒ることも
ある

怒るような
ことはない

6、あなたは初めて来たお客さんには、恥しくて挨拶したり、又お話することが出来ませんか。

出来ない

出来る時もある

出来る

7、あなたは込み入つたむづかしい仕事を、注意深く、永く続けることが出来ませんか。

出来ない

出来る時もある

出来る

8、あなたは何時も気分がさつぱりせず、気がいらいらしていますか。

している

している時もある

していない

9、あなたは年齢の上の人の機嫌を悪くしないように、又はその人達によく思われるように気を使いますか。

気を使う

気を使う時もある

気を使わない

10、あなたは兄弟姉妹や友達とどのくらい喧嘩をしますか。

二日に一回
ぐらい

一週間に一回
ぐらい

殆んどしない

11、あなたは何かで相手に敗かされた時、この次にはその人を敗かしてやろうと強く思いますか。

強く思う

思う時もある

思わない

12、誰かが誤つてあなたのものを汚したり、破つたりした時、非常に腹を立てて怒りますか。

非常に怒る

怒らない時もある

怒らない

13、あなたは非常に気の毒な人を見たり、気の毒な人の話を聞いた時、非常にかわいそうだと思いますか。

思う

思わない時もある

思わない

14、あなたは他の人達と比べた時、何となく自分が劣っているような気がしませんか。

気がする

気がする時もある

別に気がしない

15、あなたは葉書をポストに入れた時、果して入つたかどうか、或は途中に引掛つたのではないかと、何時までも気になりますか。

気になる

気になる時もある

別に気にならない

16、あなたは食べ物に好き嫌いが多いですか。

多い

嫌いなものが一・二ある

ない

17、あなたは面白いことを言つて、人を笑わせることがよくありますか。

よくある

時にはある

殆んどない

18、あなたは両親によく口答えをしますか。

よくする

する時もある

殆んどしない

19、あなたは自分の思つていることを、大がいにあつさり人に言うことが出来ますか。

出来る

出来る時もある

なかなか出来ない

20、あなたは自分のすること、言うことに何時も自信を持つていますか。

持つている

持つていない時もある

持つていない

——本学助教授——